

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや		
所在地	岩手県盛岡市本宮字小幡92-1 (電話) 019-631-3433		

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	3月11日

## 【情報提供票より】(19年 12月 25日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	12月	25日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤	5 人, 非常勤	13 人, 常勤換算 10 人

### (2)建物概要

建物構造	木造(一部鉄筋) 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780	円

### (4)利用者の概要(12月 25日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	7 名	要介護4	3 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	プレスト斎藤外科クリニック、ゆいとびあ歯科、訪問看護ステーションゆとりが丘
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は住宅街の中に立地しているが、地区内には以前から高齢者施設等があったため地域の方の施設や認知症に対する理解を得やすく、早くから地域との連携が図られ、町内会活動への参加のほか、近隣の方との日常的な交流もできている。2ユニットの事業所は1階と2階に分かれており、合同でのミーティングなども定期的に開催されている。母体会社の高齢者協同組合は複数の介護サービス事業所の他に市内にグループホームをもう1箇所運営しており、自社事業所内での職員交換研修等も実施し、2ユニットも含めた複数事業所を有するメリットを生かしてサービスの質向上に取り組んでいる。
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回実施された評価で挙げられた課題は3点あった。そのうち1点は改善されているが、他の2点は改善に向けた計画的な取り組みはまだなされていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で実施している。評価の各項目内容について話し合いを行うことで、事業所としてこれまで不足していた取り組みを確認するとともに、サービスの質の向上に対する理解を深めることができています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2~3ヶ月の間隔で開催し、今年度も5回実施されている。会議での討議内容は、事業所からの状況報告だけでなく運営上の課題等についても積極的に話し合わせ、改善に向けた取り組みにつなげることができている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホールに投書箱を設置しているが、家族が更に意見や苦情を出しやすくするために、面会時には積極的に話し掛け、その都度アンケートも実施して意見等を把握できるように努めている。アンケート結果はすぐに職員に伝えるとともに申し送りも行い、職員全体に対する周知を図り問題の改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の方が犬の散歩の途中で立ち寄りたり、町内会活動で近所の花壇作りを行うなど、日常的に地域との自然なつながりができている。また、夏祭りを開催して多くの地域の子供たちが参加したり、地域の老人福祉センターを利用してグループホームに対する理解を深めるなど、地域との連携を図れるように取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員皆で話し合い、入居者と職員が喜怒哀楽を共に感じて暮らしていけるようにしたいとの思いを、分かりやすくまとめた理念を掲げている。	<input type="radio"/>	地域とのつながりは比較的できていると思われるが、理念に地域密着型サービスとしての視点を入れることで、地域に根ざした運営を更に推進できるようにすることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について日常的な話し合いなどはないが、ホールの壁に理念を掲示し、職員が日々の業務で意識できるようにしている。	<input type="radio"/>	理念に基づいた取り組みができるようにするために、職員間で話し合いを行い共通認識を高められるような取り組みが望まれる。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会活動で近所の花壇作りを行っている。ボランティアとして地元の障害者の方のバンドが演奏を行ったり、夏祭りを開催して多くの地域の子供たちの参加もあった。老人福祉センターを利用し、グループホームに対する理解を深めることができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を実施している。各項目内容について話し合いを行うことで、これまで不足していた事を確認し、サービスの質の向上に対する理解を深めることができている。前回外部評価で挙げられた課題への計画的な改善の取り組みはなされていない。	<input type="radio"/>	評価結果をサービスの質向上に効果的に生かしていくために、改善計画を作成し、運営推進会議の場なども生かしながら、計画的に取り組んでいくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告だけでなく、運営上の課題等についても議題とし、徘徊者に対するGPSの使用や、職員の手数が不足する時間帯における短時間パートの利用など、提案された意見を実施につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者が運営推進会議メンバーに入っているために繋がりができていて、制度や運営面で分からないことは日常的に連絡をとり連携を図っている。	○	今後は市担当者に行事参加を呼びかけたいとのことであり、交流による理解の推進のために実施してほしい。また、近隣市有地の公園整備要望を進めたいとの意向もあり、行政とのつながりを大切に推進してほしい。
う					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	体温・血圧、排泄回数等の記録を、毎月家族に送付している。通院介助を職員が行った時は、電話で報告している。家族が来所したときはできるだけ話をし、生活の様子を報告するようにしている。金銭管理は自己管理、ホーム管理、立替払いなど、本人の状態に合わせて行っている。	○	ホームで預かり金の管理をしている場合には出納帳を記載しているので、その内容を定期的に家族に報告し、確認印を頂くことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱設置のほか、家族の面会時にはその都度アンケートを実施し、面会中に感じたことなども含めた意見等を把握できるように努めている。アンケート結果はすぐに職員に伝えとともに申し送りも行き、改善につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない退職者はあるが、職員の異動は行わないようにしている。退職での職員変更によるダメージを防ぐために、利用者個々人の担当者は決めず、職員全体で関わりを持つようにするとともに、影響を受けやすい利用者や新しい職員への配慮を心がけるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中途採用者の初任者研修は、マンツーマンによる2週間の実地研修のみで行っている。所内研修計画はないが、事業所外で開催される研修には全職員が順番で参加できるようにしており、出張報告は毎月開催するミーティングで行っている。	○	初任者の実地研修や所外研修参加の報告会は行われているので、今後は更に、就業時及びその後の各職員の段階に応じた研修を受けられるように、年間計画に基づいた所内研修を開催するなどの工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県協会主催による定例会やブロック会に、職員が交代で参加している。同系列の事業所と交換研修を実施し職員育成を図るとともに、来月は合同新年会開催による交流を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込み時には利用者にも事業所を見学してもらい、入院・施設入所中の方には訪問し面接している。入所後も家族との話し合いを継続し、新たな情報の聞き取りや入所後の状況報告をこまめに行い、情報収集に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事などを、本人の機能に合わせて一緒に行ってもらえるように心がけている。お手玉などの遊びの中でも、職員が教えてもらうようにして、本人から学び、感謝するような場面作りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で、利用者個々の思いや意向の把握に努めるようにしている。お墓参りをしたいと希望している方もいて、実現できるようにしていきたいと考えている。	○	把握した本人の希望については対応方法の検討を継続し、実現できるよう期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族にケアや暮らしに対する希望を聴いて把握に努め、それらを基にカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月開催するカンファレンスで全利用者の状況を確認し、変化に応じた対応を話し合い、申し送り等で周知を図っている。介護計画は3ヶ月で見直しをするように努め、家族に説明し確認印をいただいている。	○	介護計画の評価がなされていない。また、見直し後の介護計画作成がなされていないものも散見されるので、確実な実施が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとることにより、日常の体調管理や緊急時の24時間対応ができるようにしている。家族が通院介助できないときの職員による通院介助の代行は、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に意向を確認し、ほとんどの方が希望するかかりつけ医を継続している。かかりつけ医が変更になる際には情報提供を積極的に行うようにしている。通院介助は基本的に家族が行うが、職員介助の時は電話にて結果報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が進行した場合でも、医療依存度が高くなった時でも本人や家族の希望により入居継続している。終末期に対する対応については、家族、医師と話し合いを行っており、方針がまだまとまっていない方についても継続して話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴拒否者への誘導の声掛けや利用者から相談を聞く場合など、周囲に配慮して行うようにしている。記録に名前が書かれているものの管理のあり方について、ミーティングで話し合っている。	○	プライバシーへの取り組みがより積極的に行われるようにするために、研修会を開催し、全職員がグループホームで求められるプライバシーの内容や確保のあり方について学ぶことが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のかわりの中で、声を掛けて気持ちを聞いている。食事や入浴は本人のペースでゆったり行い、夜遅くまで職員と会話をしている人など、体調やそのときの気持ちに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1階は心身の状態から調理等を行う方は少ないが、2階は活気があり調理等にも積極的な方が多く食事の会話も多い。メニューは職員が1週間分を決めている。買い物に行く利用者は1人程度で、雪のある期間は職員のみで行っている。	○	ユニットごとの利用者の状態により活動できる内容や雰囲気は違っているが、食事を楽しめるようにするために、食事準備への参加や食事の会話、メニューに利用者の意向も反映するなど、工夫することが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴や毎日の入浴など、本人の希望に応じた対応ができるようにしている。入浴を嫌がる利用者には、なじみの職員が本人に合わせて声掛けするようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や調理など利用者の力を活かした場面作りをするほかに、小正月のミズキ団子作りなどの慣わしを行い、経験を生かしながら楽しみを持てるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は近所に行くことが多いが、絵を描きたいなどその時の希望にそった外出支援も心掛けている。散歩は冬期間は少なくなった。月1回程度ドライブに出かけており、行き先は利用者の希望も生かしている。ドライブの時は、利用者の急変に備え医療情報・緊急連絡先などの情報を持参している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアは開閉時にさりげない音が出るように鈴をつけ、職員全員で見守りし安全面に配慮している。利用者が屋外で徘徊しているところを見たら連絡をいただくように、運営推進会議や散歩の時に地域の方に協力依頼しているが、過去の事故事例から危険性の高い方にはGPSも使用している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は事業所で年2回実施(内1回は消防署の協力あり)する他、地域の消防訓練にも参加している。運営推進会議で、町内会に災害時の支援を依頼している。今年度中に防火管理者を増員し、複数の目で防災チェックができるように進めている。	○	事業所としても地震対策が今後の課題と考えているので、早期に進めていただきたい。防災協力に関する地域への働きかけはこれまでも行っているが、まだ十分な連携はできていないので、今後更に進めていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量チェックを行い、摂取量が少ない人にはジュースなどの好みのもので摂取できるようにしている。食事は盛り付け量を個人に合わせるほか、刻みにして提供するなど、状態に合わせた提供を行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには花がさりげなく飾られていて、廊下や居間の中には観葉植物の緑を配置している。ダイニングキッチンで食事準備をする様子がすぐに見え、調理の音や料理の匂いも身近なところで感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の持込が可能で家庭と同じ部屋作りができることがパンフレットに書かれており、仏壇を持ち込んだり部屋の入り口に暖簾を使用している利用者もいる。隣合う二室間の壁にドアが設けられている夫婦部屋もある。		